

2014年12月10日

【危険な海路で移動する難民、移民数が過去最多に】

UNHCRは海路で移動する難民や移民が増えている状況にも関わらず、国際社会がこれに十分に対応出来ておらず、多くの命が失われていることに警鐘をならした。

アントニオ・グテーレス国連難民高等弁務官の呼びかけによって、恒例となった「難民保護の世界的規模の課題に関する意見交換」(High Commissioner's Dialogue on Protection Challenges)の2014年のテーマは「海上における保護」(Protection at Sea)海路で避難する難民や移民をいかに保護するかである。会の開催に先立ち、グテーレス高等弁務官は庇護を与えるのではなく、むしろ外国人を排除する動きが見られる国々があると語った。

「記録的な数の人々が紛争で家を追われている今、逃れてきた人々を保護しないという対応は誤っている。治安を守るために入国を管理することはどの国においても重要事項だが、その方針を決定する前提に、庇護を求めて逃れる難民をさらなる窮地に追い込まないようにする配慮がなければならない。」

海路で移動した人数を正確に把握することは難しいが、把握できている数字だけ見ても2014年はこれまでで最も多い年であった。沿岸警備や入国のモニタリングを行なっている機関によると、今年1月から少なくとも34万8000人が危険な船での移動を試みたことがわかっている。歴史的に見て海路で移動するのは移民が多いが、今年是他国に庇護を求めて避難する難民の数が増えた。

リビア、ウクライナ、シリアとイラクの危機を受け、海路で避難する人が最も多くたどりつく先は欧州である。欧州に船で到着する全員が庇護を求めているわけではないが、今年1月以降、地中海を渡って避難した人数は20万7000人に上る。これはリビア内戦最中の2011年の海路での移動者数7万人の約3倍にあたる数字である。

さらに今年の特徴として、シリアやエリトリアなど、難民発生国からの避難者が、海路で移動した人の半数を占めたことがあげられる。これは今年初めて見られた現象である。移民や難民が船で移動するのは、地中海に加え、他にも3つの海洋を通過するルートがある。アフリカの地域では、今年1月1日から11月末の間に8万2680人がアデン湾と紅海を渡り、エチオピアやソマリアからイエメンへ、またはその先のサウジアラビアといったペルシャ湾岸の国々をめざした。

国連難民高等弁務官(UHCR) 駐日事務所 広報室
107-0062 東京都港区南青山6-10-11 ウェスレーセンター
Tel 03-3499-2310 Fax 03-3499-2272 www.unhcr.or.jp

UNHCRの支援活動は皆様のご寄付に支えられています。ご寄付はUNHCRの公式支援窓口である国連UNHCR協会を通じてお願いします。国連UNHCR協会
フリーダイヤル:0120-540-732(平日10時~18時)www.japanforunhcr.org



東南アジアでは今年 5 万 4000 人が海路での移動を試みたと見られる。その多くがバン
グラデシュやミャンマーを出発し、タイやマレーシアをめざしている。

カリブ海では今年 1 月 1 日から 12 月 1 日の間に少なくとも 4775 人が貧困を逃れ、あ
るいは庇護を求めて海路で移動した。

そしてこのような人々の多くが命を落としたり、密航業者といった組織的犯罪の被害
者となっている。UNHCR が集計した統計では、今年 4272 人が海路の移動で亡くなっ
ている。このうち 3419 人は死亡するリスクの最も高い地中海で命を落としている。

東南アジアでは今年約 540 人がベンガル湾を渡ろうと試みて死亡した。また紅海とエ
デン湾では少なくとも 242 人が、カリブ海では 71 人が今年亡くなっている（12 月 8
日時点）。密航を斡旋する組織的なネットワークは、罰則を受けにくい紛争や治安の
悪い地域で発達し、海路しか選択肢が残されていない人々を搾取の対象にしている。

グテーレス高等弁務官はこの問題の解決が困難である要因の 1 つとして、海路での移
動が複数の国の国境をまたいで起こっている点を指摘した。「命からがら逃れようと
試みる人を我々は止めることは出来ない。そもそもなぜ人々が逃れているのか、安全
な避難路を確保できない原因はどこにあるのか、また組織的犯罪をなくすために出来
ることは何であるのかといったこの問題の根源を見つめ直す必要がある。それと同時
に、避難を試みて被害者となった人々をどう保護するかも考えなければならない。こ
れは難民である人とそうでない人を判別し、庇護を与えるという難民認定のしくみそ
のものを強固なものにする事にもつながる。」

今年の「難民保護の世界的規模の課題に関する意見交換」は 12 月 10 日、11 日にか
けて行なわれる。参加者は、各国政府、NGO、沿岸警備担当者、学術組織、IOM、
UNODC、OHCHR、IMO といった国際機関の代表である。

* 尚「危険な海路で移動する難民、移民」に関するビデオ、写真などはこちらでご覧
頂けます。

<http://www.unhcr.org/seadialogue/>

また、10 日の開会式の様子はこちらで中継いたします。

<http://webtv.un.org>

国連難民高等弁務官 (UNHCR) 駐日事務所 広報室
107-0062 東京都港区南青山 6-10-11 ウェスレーセンター
Tel 03-3499-2310 Fax 03-3499-2272 www.unhcr.or.jp

UNHCR の支援活動は皆様のご寄付に支えられています。ご寄付は UNHCR の公式
支援窓口である国連 UNHCR 協会を通じてお願いします。国連 UNHCR 協会
フリーダイヤル: 0120-540-732 (平日 10 時 ~ 18 時) www.japanforunhcr.org

